

「原子力研究の主要な成果」2006年版の 発刊にあたって

電力中央研究所の環境科学研究所では地球シミュレータを使った地球温暖化の予測研究等を進めています。この結果を見るまでもなく、長い地球の歴史の中で最近の炭酸ガスの濃度上昇はかなり異常なものだと感じます。これからのエネルギー源は地球環境とエネルギーセキュリティの観点から調和の取れたものでなければなりません。原子力は、まさに、その役割りを中心的に担わなければならないエネルギー源です。

電力中央研究所は原子力に関する基盤技術を支える研究開発、あるいはブレークスルーをもたらす革新的な技術開発を進めています。原子力技術は総合的な取り組みが必要であり、電力中央研究所においても複数の専門別研究所が各々の幅広い専門能力を発揮し、連携をとりつつ進めています。すなわち軽水炉発電に関する研究は主に、原子力技術研究所と材料科学研究所、バックエンドに関する研究は地球工学研究所と原子力技術研究所、次世代炉・サイクルと放射線生物影響に関する研究は原子力技術研究所、ヒューマンファクターや原子力政策あるいはリスクコミュニケーションに関する研究は社会経済研究所、立地技術については地球工学研究所にて実施しています。

これらの幅広い成果を纏めて提供して欲しいとの要請を多方面からいただき、昨年度より本冊子を刊行しております。今般、主に2005年度の電力中央研究所原子力分野の研究開発成果を本冊子に纏めました。ご高覧いただき、当研究所の原子力分野の活動につきまして一層のご理解を戴くとともに、ご意見を頂戴できれば幸いに存じます。

原子力技術研究所長 横山 速一